

## 告辞

穏やかな風が新芽の香りを運び、春の訪れが待ち遠しく感じられるこのよき日に、令和7年度崇城大学大学院修了式・学位記授与式、ならびに卒業式・学位記授与式を挙げていただけますことは、教職員一同、喜びと感謝の念に堪えません。本日はご多用のところ、来賓の皆さま、保護者の皆さまにご臨席を賜り、心よりお礼申し上げます。

工学および芸術の大学院研究科を修了された皆さん。そして、5学部の卒業生の皆さん。このたびの修了ならびに卒業、誠におめでとうございませう。併せて、これまで皆さんを温かく支え、励ましてこられた保護者の皆さまにも、謹んでお祝いを申し上げます。立派に成長されたご子息・ご息女の晴れ姿を目の前に、感慨もひとしおのことと拝察いたします。

本日、「博士」あるいは「修士」の学位を取得された修了生の皆さん。数々の困難に直面しながらも研鑽を重ね、研究に真摯に向き合い、見事な成果を挙げられました。課題を克服する過程で新たな知を創造し、高度な専門性を身につけられたことは、皆さん自身のたゆまぬ努力の証であり、本学の誇りでもあります。

また、栄えある「学士」の学位を手にした学部卒業生の皆さん。皆さんの大学生活は、コロナ禍という未曾有の事態の中で始まりました。オンラインと対面が併用される教育環境、制約を受けたキャンパス活動、思うように進まない日々。そうした逆境の中にあっても、学びの歩みを止めず、忍耐強く努められました。令和5年5月に新型コロナが5類感染症へ移行してからは、本来の活気あるキャンパスライフを徐々に取り戻し、豊かな時間を積み重ねてこられたように思います。これらの経験の一つひとつが皆さんに社会人基礎力や専門力に加え、人間力という大切な力を授けました。本学での多くの経験は、これからの人生において必ずや大きな支えになることでしょう。学生生活で得た教訓を胸に、新たなステージでの飛躍を期待しています。

今回の修了生・卒業生の中には、本学が推進するグローバルな異文化交流に積極的に協力していただいた外国人留学生も多数おられます。日本語の習得や文化の違いに苦労しながらも努力を重ね、この日を迎えられたことに心から敬意を表します。皆さんが母国と日本の懸け橋として、今後ますますご活躍されるよう願っております。

さて、国内では歴史的な政治変動が続き、新政権が掲げる積極財政や総合経済対策に大きな注目が集まっています。一方で、大規模地震や集中豪雨が相次ぎ、不安を抱える人びとも少なくありません。国外に目を向ければ、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や中東情勢の緊迫化など、国際社会は一段と不安定さを増しています。大国の力を背景に現状変更を試みる動きが世界秩序に暗い影を

落とし、深い憂慮を禁じ得ないところです。こうした状況にあって、熊本地震から10年という節目を迎える本年、あのときに実感した“若い世代の力”がいかに復興の原動力となったかを改めて思い起こします。

いま、AI や IoT の進展によって、ソサエティー5.0 と呼ばれる超スマート社会が具現化しつつあります。特にチャット GPT をはじめとする生成 AI 技術は産業構造や価値観を一変させ、私たちはまさに明治維新や戦後復興にも匹敵するエポックメイキングな転換点を迎えていると言っても過言ではありません。アルテミス計画による有人月面探査、自動操縦による空飛ぶ車、超電導リニアの実用化など、未来社会を象徴する革新が次々と現実味を帯び始めています。熊本では、世界的な半導体メーカーTSMC が本格稼働を開始し、「くまもとサイエンスパーク構想」も動き出しました。これらは、日本の産業に新しい潮流をもたらす可能性を秘めています。

このように、将来予測が難しさを増す激動の時代にあっては、若者の果敢なチャレンジこそが社会の希望となります。先端技術のイノベーションにより新しい価値を創り出し、平和で豊かな未来社会を築いていくためには、皆さんの柔軟な発想と行動力が不可欠です。本学で培った実学教育とパイオニア精神を礎に、グローバルかつローカルな広い視野を保ちつつ、どうかさまざまな未知に挑み続けてください。新天地においても失敗を恐れず、課題を自ら見だし、前向きに解決へ向かう皆さんの姿勢が未来を力強く切り拓いていくものと確信しております。社会人、あるいは大学院生として新たな一步を踏み出されるにあたり、同窓生としてこれからも本学を温かく支え、見守っていただければ幸いです。

ここで、船出する皆さんへの餞に、一つだけ申し上げたいことがあります。それは、「出会いを糧として、自らを生涯にわたり磨き続けてほしい」ということです。人生には、多くの出会いと別れがあります。その中には、皆さんの生き方や価値観に深い影響を与える人が必ず現れます。本学で出会った恩師や友人は、これからも皆さんを支え、励まし、ときには進むべき道を示してくれる大切な存在になると思います。また、自分とは異なる考えを持つ人と向き合わなければならない局面もあるはずです。しかし、そのような苦しい経験こそが人生の反面教師となり、人間的な成長を促す貴重な学びを授けます。どうか多様な価値観に耳を傾け、人との関わりに前向きであり続けながら、自らの個性と資質をさらに磨き上げてください。その歩みが皆さんの人生を豊かで実りあるものに導いてくれることでしょう。

イギリスの世界的な理論物理学者スティーブン・ホーキングは、「知性とは変化に適應する能力である」という言葉を残しています。私たちは、人びととの出会いや対話を通じて視野を広げ、経験を積み重ねることにより学びを更新し、自身のポテンシャルを高めていきます。創造性や独創的な発想もまた、先人の知恵

や周囲からのアドバイスを謙虚に受け取り、自らの経験と重ね合わせる中で育まれるものです。困難に直面したときには、これまでの出会いから得た多様な思考を支えに、勇気をもって前に進む力へと昇華させていただきたいと思います。皆さんが学び続ける姿勢を忘れず、人とのつながりをエネルギーに変えながら、地域社会のみならず国際社会の発展にも着実に寄与されることを期待しています。

結びにあたり、修了生と卒業生の皆さんには、これからの道に無限の可能性が広がっています。今後一層の飛躍を教職員一同、心より楽しみにしております。いつの日か、大きく成長された皆さんと再びお会いできるようお願いしつつ、皆さんが心身ともに健やかに、充実した幸せな日々を歩まれることを祈念し、告辞いたします。

令和8年3月20日  
崇城大学学長 小野長門